

東武鉄道 千葉・野田に戸建て500区画

パッシブデザイン ハンドメイド導入 駅前立地で区画約50坪

東武鉄道は14日、東武アーバンパークライン（野田線）清水公園駅東側の大規模分譲地「ソーライエ清水公園アーバンパークタウン」の街びらきを行った。駅前に広がる土地区画整理地内の約500区画を、戸建住宅を中心に分譲する。

環境共生型まちづくりを手掛けるチームネットの甲斐哲郎氏をプロデューサーに起用し、パッシブデザインを採用する。区画は50坪前後を確保、敷地に対して建物を斜めに配置し風と光を建物に取り込む。建物周辺に高木を多数配置し、日差しを遮り冷気を建物に供給。建物内にも風の通り道を確認するとともに、2階ホールには熱い空気を逃がす高窓を設けた。屋根を持つアプローチデッキを設置し日射熱を和らげるとともに、すだれやグリーンカーテンを

設置できるフックを用意した。

敷地内の高木を近隣の共有の財産として、保全する仕組みも設ける。

ハンドメイドコーデイナーター・坂田夏水氏（夏水組）の監修によって、分譲住宅に手作りの要素を導入。すまいに愛着をもってもらうことも

に自分らしい住まいを実現する。玄関周りや主寝室の壁（各1面）を下地

までの仕上げにし、黒板塗料や輸入壁紙を用意して居住者に仕上げをもらう。屋外のアプローチデッキも居住者が塗料で仕

上げる。

駅前には住民同士や地域居住者との交流スペースとなる約4500平方

メートルの広場を設けた。広場内の販売センターにカフェ

やえほんの図書館、コンシェルジュ機能を併設。地域住民による手作りのピザづくりができる石窯も設置した。

ハンドメイドの指導などにも対応

する工房も用意。専門スタッフによるサポートのほか、住民同士が教えあえるようにした。季節ごとに交流やイベントなども計画する。すでに建築確認を取得



した28棟は、150〜178平方メートルの敷地に、2階建て91〜99平方メートル。7月中旬に発売を開始する。価格は3000万円台前半が中心。ウェブや電車広告による事前反響は事前想定を上回る。地元野田市だけでなく、埼玉県や神奈川県などからの資料請求もあるという。年間数十棟のペースで順次分譲する予定。